

[果樹部門 令和6年度 参考となる研究成果]

事項名	おうとう「ジュノハート」の自発休眠覚醒に必要な低温遭遇時間		
ねらい	限られた労働力で面積拡大を図る手段として、収穫時期を早めて労力分散ができる加温ハウス栽培がある。加温開始時期の判断に用いられている低温遭遇時間は「佐藤錦」では基準があるが、「ジュノハート」では知見がない。そこで、「ジュノハート」について検討したところ、低温遭遇時間と覚醒時期が明らかになったので参考に供する。		
内容	<p>1 自発休眠覚醒に必要な低温遭遇時間は、10月1日を起算日とした7.2℃以下を基準とすると、「ジュノハート」が1,900時間前後、「佐藤錦」が1,750時間前後で、「ジュノハート」の低温遭遇時間は「佐藤錦」より約160～170時間多い(表1)。また、「佐藤錦」の低温遭遇時間は、山梨県、長野県が目安としている1,400時間、山形県が目安としている1,650時間より多い。</p> <p>2 青森県五戸町(りんご研究所県南果樹部)での自発休眠覚醒時期は、「ジュノハート」が2月1日前後、「佐藤錦」が1月25日前後と推定され、「ジュノハート」は「佐藤錦」より1週間程度遅くなる傾向である(図1)。</p>		
期待される効果	適切な時期に加温が開始されることで、加温ハウス栽培における安定生産が見込まれる。		
利用上の注意事項	気象データは県南果樹部の気象観測値を用いた。		
問合せ先(電話番号)	りんご研究所 県南果樹部 (0178-62-4111)	対象地域 及び経営体	県内全域のおうとう「ジュノハート」作付経営体
発表文献等	令和3～5年度 りんご研究所試験研究成績概要集(特産果樹)		

【根拠となった主要な試験結果】

表 1 自発休眠覚醒時期と 7.2℃以下遭遇時間（令和 3～5 年 青森りんご研県南果樹）

枝採取年	品種	自発休眠覚醒時期	7.2℃以下遭遇時間
令和 2～3 年	佐藤錦	1/25	1,806
	ジュノハート	2/ 1	1,970
令和 3～4 年	佐藤錦	1/27	1,722
	ジュノハート	2/ 3	1,890
令和 4～5 年	佐藤錦	1/25	1,748
	ジュノハート	2/ 1	1,916

(注) 低温遭遇時間は、10月1日から枝採取日までの7.2℃以下の時間数として求めた。

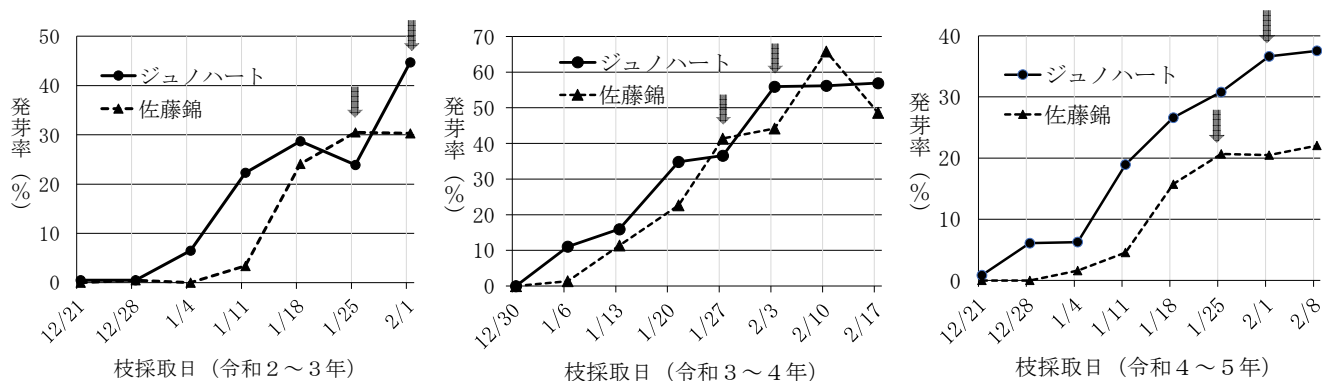


図 1 枝採取日と花芽発芽率の推移（令和 3～5 年 青森りんご研県南果樹）

- (注) 1 県南果樹部A-1号圃の「ジュノハート」/アオバザクラ（令和5年：18年生）を3～5樹、「佐藤錦」/アオバザクラ（令和5年：28年生）を3樹供試した。
- 2 12月中旬～2月中旬まで1週間毎に花束状短果枝が5～6個程度着生した2～3年枝を1～2本/1樹採取し、水挿して10～20℃の恒温器内で加温、7日毎に花芽の発芽率を調査した。
- 3 加温後、発芽率が高くなった枝が多くなった時点で、枝の採取日毎に発芽率を比較した。令和2～3年及び令和3～4年の調査は加温35日後で比較、令和4～5年の調査は加温28日後で比較した。
- 4 自発休眠覚醒時期は、発芽率がほぼ安定した時点での枝採取日を覚醒時期とした（図中矢印）。